



ミツカン水の文化センター

表紙：障子に穴を開けて、こちら側（人間界）を覗き込む妖怪たち（撮影協力：百妖箱「妖怪アートアフリマモノケ市」／撮影：川本聖哉／河童描画：わたなべしんじ）

裏表紙上：滝と淵が連なる徳島県三好市山城町の「どろめき淵」。河童のような姿をした「エンコ」が潜み、苔の生えた滑りやすい岩場に近づく人間や家畜を狙う。どろめきとは轟く（どろめく）に由来する（撮影：鈴木拓也）

裏表紙下：（右）鳥山石燕『今昔百鬼拾遺』から「蜃気楼」。昔の人たちは蜃気楼を「大きなハマグリが気を吐き出すために起きる」と考えていたという（国立国会図書館蔵）

（左）桃山人筆・竹原春泉画『絵本百物語』から「船幽霊」。「盆（や大晦日）は海に出るものではない」とされるのは船幽霊が現れると思っていたから（川崎市市民ミュージアム蔵）

